

立教池袋高校「異文化トレーニング」授業への参加報告

立教池袋高校（男子校）3年生の自由選択授業の一つである科目「異文化トレーニング」の担当講師をされている大久保先生（*）より、今回、異文化研究会会長 御守さんにワークショップ形式の授業へのゲスト（男子生徒なので、ロールモデルになる男性陣をとの要請）参加協力の依頼があり、御守会長を含め研究会会員5名が参加しました。その時の授業内容の概要について報告したいと思います。

（*）講師の大久保さんは、立教大学院異文化コミュニケーション研究科の卒業生で、RSSC 異文化研究会には諸々と協力をいただいている方です。

日 時：2012年10月16日（火曜日）13：10～14：00、14：10～15：00の2コマ。

場 所：立教池袋高校の教室。

参加者：大久保先生、立教池袋高校3年生の10名。

異文化研究会（御守、藤田、山田、田島、菅野）の5名（ゲスト）。

授業の趣旨は、「異文化コミュニケーション」を主テーマに生徒とゲスト間の交流を図るなかで、海外での駐在、出張で、外国人との交流経験を有しているゲストとの対話を通じて異文化への対応力とは？ グローバル・マインドを持つために必要なものは何か？ について、お互いに考える機会にしたいとのことでした。

具体的には、生徒にとっては、異文化成功法則（心構え、態度等）を知る。グローバルに活動・活躍するとはどのようなことかを考える。10代のような若いうちにやっておくことを考える。などの利点がある。一方、ゲストにとっても、現代の若者の考え、悩みを知ることができる。自分達の知見・経験を伝えることにより、青少年に対するグローバル人材育成の一端になる。自らの異文化体験を語ることによって、自分自身の経験を整理・俯瞰することができる。という効果がある。



授業進行形式は、生徒が2名とゲストが1名のグループをつくる（5グループ）。1コマ目の授業では、最初に各グループ内でお互いの自己紹介をする。次に生徒からゲストにインタビュー（ゲストの異文化経験・エピソードに関する質問）をして、ゲストが答える。インタビュー終了後、各グループの生徒からインタビュー結果を報告してもらい、全員で各グループの結果をシェアする。10分休憩後の2コマ目授業では、生徒たちがゲストに聞きたいこと、教えてほしいことを自由にインタビューし、1コマ目授業と同様に各グループの生徒からインタビュー結果を報告してもらう。最後に、各ゲストから今日のワークショップ式授業での印象・感想を話して全員での記念写真を撮影してもらい終了しました。

授業内容（各生徒たちからのインタビュー結果発表）の概要を以下にまとめますが、ゲストの経歴は長年海外駐在をされた方、海外出張の豊富な方、また専門分野としても文系、工学系と広範に亘りましたが、ゲスト達が異文化経験をした結果としての共通点的（ゲストの共有認識）なキーワードがいくつか出ていました。

（1コマ目授業インタビュー結果）

・英会話としては、中学3年までに習う英語をマスターすれば、概ね困ることはない。最初は戸惑うことがあるが、慣れてくると日常的な会話はなんとかなる。

- ・外国人は自己主張が強く、Yes/No が明確なので、日本人的な曖昧さは彼らには理解してもらえないので、自分の考えをはっきりと話すことが大事。
- ・相手を理解、説得するには、根気（体力がないと根気も続かない）も必要。
- ・相手とのコミュニケーションでは、最近メール、電話等の情報ツールが活用されているが、特に込み入った話、重要な内容の時は、相手の表情、態度からも色々な情報を得ることができる Face to Face でのコミュニケーションが重要。
- ・外国人は自国に誇りを持っていて、歴史・伝統的文化をよく知っている人が多い。自分達も日本の歴史、伝統的文化についてそれなりに知っておくと、コミュニケーションの幅が広がる。

（2コマ目授業インタビュー結果）

- ・自分の得意分野を見つけ、究めていくことが必要。
- ・ある問題に向き合った時、一面的な見方のみでなく、別な視点からも見てみることも必要。
- ・異文化社会では、「郷に入れば郷に従う」ことが基本と割り切ることも必要。
- ・異文化での人との付き合い方では相手の良いところを見つけて褒めてあげることも大事。
- ・ポジティブな気持ちを持つこと。
- ・多様なスキルを身につけること。無駄と思われるような事でも様々な経験をしてほしい。
- ・自己主張と相手の言い分のバランスがグローバル化には大事な要素。

（授業を終えて）

日常的に今の若者たちとなかなか交流することがない我々でしたので、授業前まではうまく進めていけるのか多少不安な気持ちもありましたが、各グループでの対話は非常に活発で時間オーバー気味になり、心配は全くの杞憂でした(まあ、心優しき彼らが、おじさん達に合わしてくれた面もあったのかもしれませんが?)。

当日夕方に大久保先生から「生徒たちは通常より緊張感と関心を持って、皆様の素晴らしい経験に耳を傾けていました。人生の大先輩からのアドバイスもしっかり受け止めていたようです。彼らにとって、思い出深い授業になったと確信しております。これを機会に、異文化研究会の年間行事として頂ければ幸いです(?)」とのメールが届き、多少でも生徒らの参考になってくれればいいなというのが、今回参加させてもらった我々の想いです。

（生徒たちの感想）: 後日、生徒達の感想が大久保先生より送付ありましたので、いくつか紹介します。

- ・普段全く接点を持つことができないような方々と話しができて、非常に有益なものだった。
- ・世代が違くと全く話がかみ合わないのでは?とと思っていたが、全くそんなことはなく、むしろ同世代より会話できた気がする。
- ・高齢者の方々がとても怖く厳しい人たちであるというステレオタイプ思っていたが、この授業でその考えが一変した
- ・ゲストの皆さんが口をそろえておっしゃっていたのが自己主張という言葉で、何か自分のアピールポイントを持ち、それをアピールすることから始めようというのが勉強になった。
- ・言語は伝えようとする意志の強さで伝わるということ、読書を大切に、外国に行って日本のことを聞かれて答えるようにしておくこと、日本の良さを外国に行っても忘れないようにすることなど、多くのことを学んだ。
- ・海外の経験談はすごく刺激的だった。英語を全くしゃべれない時に海外に行って、どうコミュニケーションをとったかという話はとても興味深かった。

了